

いろいろなことに出会った1学期！ 花組：中原

気が付けばもう1学期が終わろうとしています。毎日があっという間に過ぎていったように感じますが、4月からの写真を見たり日々の出来事を振り返ったりしていると、あんなこともこんなこともいっぱい詰まった1学期だったと実感します。



新しく始まった花組での生活は、子どもたちにとって、たくさんの“出会い”にあふれていたのではないのでしょうか。花組の環境の中でまず目に入るもののひとつにSLがあります。自然とSLに子どもたちが集まり、「動物園に行くよ」「維新公園に出発」「次はゆめタウンに行く」などと、想像を膨らませて遊びが繰り広げられていきました。それぞれの生活経験が遊びにつながっているのかなと感じていました。最近では、「くじ屋さんです。来てください」と、くじさんが開店します。毎日Aちゃんがくじ屋さんを始めると、B君もAちゃんの横に並んで一緒にくじさんになります。CちゃんやDちゃんは、いつもお客さんになっています。そんな姿を見ると、Aちゃんにとっては、星組さんや風組さんのお店に招待してもらって楽しかった経験がくじさんにつながっていると思いますし、B君たちにとっては、Aちゃんのことを楽しそうなので、一緒に遊びたい気持ちになったのだらうと思います。花組の1学期は、SLや友達がしている遊びなどの“出会い”に心が動くことで、“やってみたい”気持ちが生まれる場面がたくさんありました。花組さんが1学期に経験したたくさんの“出会い”が、2学期にどのような形でつながっていくのか、また、2学期にはどんな“出会い”があるのか今から楽しみです。



遊びとの“出会い”だけではありません。4月には初めて出会う知らない人同士の22人と私たちでしたが、これまで一緒に過ごした日々の積み重ねで、花組の先生、〇〇先生、花組のお友達、〇〇ちゃん、〇〇君と呼び合う仲間になってきました。中には、私の好きな〇〇ちゃん、一緒に遊びたい〇〇君と思える友達に出会った人もいるかもしれません。新しい環境の中で、いろいろなものやことに出会い、自分の好きなことを見つけて楽しんでいるうちに、いつの間にか好きな友達にも出会っていたのですね。初めて出会った子どもたちの関係が、2学期にはどんなふうに広がったり深まったりしていくのかも考えるだけでワクワクしますね。

友達の輪が広がった1学期 風組：水口

進級・入園から始まった1学期。子どもたちの中では、大きく生活が変化した時期だと思います。新しい環境に慣れるまで、おうちの方から離れることが難しい子どもや寂しい気持ちを保育者に伝える子どもなど、不安いっぴいの様子でした。しかし、おうちの方が温かい言葉がけをしてくださったり、子どものがんばりを褒めてくださったり、周りの友達が優しく遊びに誘い合ったりする中で、少しずつ幼稚園が安心できる自分の居場所になっていきました。子どもが幼稚園に慣れるまで、朝の準備を子どもと一緒にしてくださったり、その様子を見守ってくださったりありがとうございました。

最初は、進級児同士で遊んだり、幼稚園に入園する前から知っていた友達と遊んだりしていました。そうすることで、より安心感を覚えていました。子どもたちの中で安心感と共に心のゆとりができると、共通の好きなものや遊びから新しい友達へと目を向けることができるようになり、友達の輪が少しずつ広がっていきました。その中で、友達と一緒に遊ぶことの楽しさやおもしろさを感じ、ときには自分が思った通りに友達と遊ぶことができないもどかしさを感じていました。“もっと友達と一緒に楽しく遊びたい”という思いから友達の言葉に耳を傾けようとしてみたり、自分の思いを伝えようとしてみたりするなどそれぞれ成長する姿がありました。

「貸して」「いいよ」と子どもたちの中で滞りなく遊びが進んでいく様子が多かった4月から6月上旬でしたが、自分の思いを伝えられるような関係になり始めた6月上旬から7月は「貸して」「今はダメなの」と自分の思いを強く表し必要なけんかをするが増え始めました。その都度、保育者が入り「いつなら貸してあげられそう」と聞くと「この遊びが終わってから」や「時計の長い針が5になったら」など「ダメ」のその言葉の裏側にはこんな気持ちがあるんだよということを子どもに伝えていきました。そうすることで、少しずつ「今はダメ。時計の針が5になるまでまって」とダメの後にいつまで待っていてほしいのかということ伝えられるようになってきました。みんながみんなそのような形ではありませんが、確かに子どもの成長が感じられるやりとりが増えていっているように感じます。これから先、友達の輪が広がることに比例して必要ないさかいも増えていきますが、それと同時に子どもが人として成長する一歩になればよいと思っています。友達とたくさん遊び、自分の好きを遊びに表現し、がんばった子どもたちです。夏休みに入りますが、夏休みも一人ひとりが自分らしく過ごすことができるよう願っております。2学期からもよろしくお願いいたします。



一歩踏み出し友達とつながった1学期 星組：井上

1学期、星組が楽しんだ遊びに“出会いじゃんけん”があります。5月末、大庭で数人の男の子たちが楽しそうにやっている様子を、A君やBちゃんがニコニコしながら遊戯室のテラスから見えていました。「やってみる？」と声をかけても「いや、見てる」と返事が返ってきます。そこで、帰りの集まりで取り入れてみることにしました。星組は帰りの集まりにクラスでゲームをして楽しむこともあります。全員がルールを共有でき、普段の遊びの中で子どもたちが自分たちで遊びを進めていける機会にもなるからです。ルールは2チームに分かれ、一人ずつ両側からスタート。コースの途中で出会ったらじゃんけんをし、勝ったらそのまま進み、負けたら自分のチームに戻って次の子とパトタッチします。A君の番のとき、前の友達が勝ったのに早くスタートしてしまい、みんなに「まだだよ！」と言われて涙目に。「初めてだから分かんもん」とつぶやいたA君に、「じゃあ今のは練習ね」と、もう一度挑戦。テラスですっと見ていたA君にとって自分からスタートを切ることは、本当に勇気がいることだったと思います。じゃんけん負けで止まってしまう子もいますが、「次の仲間が助けてくれるよ」「負けたって伝えるといいね」と声をかけると、「負けたよ！」「行ってきて！」と、自然に声を掛け合う姿が生まれていました。友達がじゃんけん勝っていく様子に歓声を上げたり応援したり仲間と気持ちを通わせたり、一体感を感じる場面もたくさん見られました。数日後、A君やBちゃんたちが自分たちで遊戯室にマットを並べて出会いじゃんけんのコースを作っていました。安心できる友達と一緒に、やってみたい気持ちを形にしていく姿に成長を感じました。今では「出会いじゃんけんしよう」「ゴールボールしよう」といろいろな友達と誘い合い、自分たちで場をつくらせて遊ぶ姿が見られます。時にはもめることもありますが、「じゃんけん決めてよう」「まだしてないD君にしよう」と話し合う姿も見られます。まだまだ保育者が入って話を聞いたり、一度止めたりして場を調整することも多いですが、その一つ一つが友達の思いを知ったり、思いを言葉にしたり、新しくみんなが楽しめるようなルールを考えたりする機会となっています。1学期たくさんの遊びの中で心も体も動かしてきました。2学期もさらにパワーアップした星組さんの姿が見られると楽しみにしています。

